

平成22年度 第3回 策定委員会議事要録

日 時：平成22年11月26日（金）午後1時30分～4時15分

場 所：市役所 3階 大会議室

出 席：山本委員長、上田委員、清水委員、河合委員、木下委員、野田委員、森川委員、
余田委員、矢野委員、渡辺委員（途中から出席）

欠 席：木ノ山委員、佐野委員

1. あいさつ

事務局

本日、佐野委員、木ノ山委員からは欠席のご連絡を、渡辺委員からは遅刻する旨のご連絡をいただいております。

山本委員長

本日は、向日市は景色のきれいなまちだということを実感させてもらえるロケーションでの会議となりました。地域福祉については、このようなのんきなことを言っていられない状況ですが、地域で力を合わせて住みやすいまち、困った時に助け合えるまちをつくる必要があります。認知症フォーラムが開催されるようですが、認・認介護という事例も紹介されています。これは確率の問題で起こりえることです。わが家でも何か問題があったときに、ご近所に対応していただかなくてはならない。このような地域社会となるよう、本日もご検討をお願いいたします。

本日が計画案に関する実質的な議論の最後となり、この後、パブリックコメントとして、市民の方のご意見をいただくこととなります。

本日は2時間を予定していますが、延長になる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

委員のみなさまには、事前にお配りいただいた資料をあらかじめお読みいただけましたでしょうか？

市民のみなさんには要約版が配布され、興味をもたれた方が本編を読まれることとなります。市民目線で、わからないこと、間違っているのではないかと思われたことをご確認ください。

前回の変更箇所などのポイント説明はしていただきますが、議論の時間をたくさんとりたいと考えています。そして、委員会として合意できたものとしてまとめていきたいと思えます。

2. 計画案についての意見交換

(1) 第1章について

修正箇所などについて

- ・10月8日の策定委員会後、庁内でのワーキングを2回開催し、それらをふまえて修正を行った。
- ・用語の統一、わかりにくい表現の修正を行った。未定稿であった第2章・6章を追加した。データはできる限り最新のものを用了。
- ・3頁に図を説明する文章を追加した。

山本 市民の方が一番目を通す所であり、一番気合が入って読むところでもあります。プロの方や初めての方が「地域福祉計画」に触れる大事なところですよ。冒頭の「地域福祉計画とは」という記述がありますが、これについて違和感があったり、疑問があったりする方はおられませんか？

木下 1ページの5つ目の文章の「すなわち」の行で使われている「市民」は、「自治会、町内会」と言った方がよいのではないのでしょうか。

山本 「自治会、町内会」は地域福祉の重要な担い手であるので、「民生委員」や「地区社協」などと合わせてきちんと記載することが重要です。一番気を使うところでもあります。事務局としてはどう考えられていますか。

上田 最初の部分なので、細かく言う必要はないのではないのでしょうか。

矢野 社会福祉協議会や地区社協も掲載されているので、それにあわせるのであれば、「自治会、町内会」の方がよいのではないのでしょうか。

事務局 この「市民」は、「自治会、町内会」と置き換え、最後に「地域住民」を追加してはどうかとありますが。

山本 市民と住民は違う。都市部は市民運動などで「市民」、地方は住民運動として住民が使われています。向日市だと市民でよいと思います。ただ、「市民」は抽象的なので、事務局で再度検討・整理していただきたい。

事務局 「地域に関わるすべての者が」という表現でまとめるよう修正します。

山本 地域福祉とは「つながり」であると考えています。「つながりを強化したい」ということをきちんと視点に据えて、全体を見ていただきたい。「つながり」をどうやって強化していくのか、というのが地域福祉計画と考えます。ネットワークやパートナーシップ、「つながる」、「つながり」という言葉をもっと強調していただきたい。

木下 「手助け」という言葉が気になっています。助け合うというよりも一方的に行うというイメージがあります。

山本 私も違和感があります。行政文章なので、これは再考してもらいたい。全体として、わかりやすい文章になっているが、そのためにリスクを冒している箇所があるので注意していただきたい。

森川 5つ目の段落の最終行は「できる」が重なっているので、「より安心してくらしができる」に修正してはどうでしょうか。それと「者」という表現が気になっています。

事務局 「人」とせず、人間と事業所などの組織を含めて「者」としています。「者」を「も

の」としてはどうかとも考えますが。

山本 「できる」については、意見の通りでよろしいかと考えます。2 ページ以降はどうでしょうか。

上田 3 ページの図の「向日市総合計画」の下に書かれている「7.67」とは何ですか。

事務局 総合計画のキャッチフレーズで、向日市の面積を表したものであり、総合計画の策定委員会が策定したもので、キャッチフレーズ的に使用しています。

山本 1 つ目の段落と 2 つ目の段落の間に総合計画の内容と地域福祉計画がどの部分を受けているかなどの説明をもう少し入れてもらえたらと思います。

河合 「協力」を「協働」にするか、という議論がありましたが、ここは「協力」でよろしいか。

事務局 ここは「協力」としました。

山本 2 頁と 4 頁の下が空いているが、ここはどうされるのか。向日市のキャラクターを入れるなどしてはどうだろうか。

(2) 第2章について

修正箇所などについて

- ・最新データに置き換えているが、残っているものも今後置き換える。
- ・自治会の加入率については、担当課に問い合わせたところ、各自治会で集計されていないため、わからないということであった。
- ・ボランティア団体、民生委員・児童委員、向日市社協、地区社協の活動概要を整理した。

清水 11 頁に掲載されているボランティア団体の基準は何ですか。

事務局 社協に登録されている団体を掲載しています。

清水 地区社協のサロン活動をしているボランティアなども掲載してはどうでしょうか？

木下 11 頁は、ボランティアセンターに登録されている団体であり、サロン活動をお手伝いされている方は団体として登録されていないので、ここではあげられていない。

清水 地区社協のサロン活動は地域の人が協力しやすい活動なので、別に扱って、一覧表などにできないだろうか。

木下 高齢者サロンは 18 か所で実施されており、データはあります。地域ではこのほかに子育てサロンもあるので、どこまで掲載するかを考える必要があるのでは。

清水 健康塾などもあるので、それらも含めて幅広く掲載しておくことが必要ではないだろうか。

山本 事務局で修正してください。

木下 8 ページは「障がい児・者の状況」は、手帳保持者のデータとなっているので、表題を修正した方がよいのではないのでしょうか。

山本 他の項目についても「状況」ではないこととなります。第 2 章は「取り巻く現状と課題」となっていますが、課題までを明確に記述していないところがあるので、数を出しているという表題に修正した方がよいかもしれません。

特にアンケート結果は、細かな数字が並んでくるので、パッと見て必要なデータが分かりやすいものにする工夫をしてもらえないでしょうか。

木 下 目次では「現状」までとなっているので、「課題」をとればよいのでは。

矢 野 21 頁で、70 歳以上の人で「男女が共に家事・育児できる環境」が第 1 位、第 2 位が「親の仕事の形態に合わせた保育施設やサービス」となっていますが、子育てに関して、どのような立場で語られているのでしょうか。

事務局 データ的には合っています。ご自身の経験などをふまえてのご意見だと思われます。

矢 野 孫を見ていて感じることもあります。

木 下 70 歳以上の意見を特筆する必要があるのだろうか。

矢 野 「70 歳以上の人からすると」というような前書きがあるとよいのでは。

事務局 箇条書きで書くのは無責任でしょうか。文章になると読みにくいと思いますが。

清 水 この計画書の利用者は誰かによるでしょう。要約版を配るとのことだが、どこまで配布するのにもよって変わるでしょう。一般の市民を対象にするなら、もっとコンパクトにする必要があるでしょう。

山 本 一次計画は、どれくらい印刷しましたか。

事務局 概要版を 3,000 部製本し、希望者に配布し、残部はほとんどありません。

山 本 今は、ホームページに掲載されるので、どこでダウンロードされるかわかりません。気をぬくことは許されない状況です。

河 合 「地区社協」と記載されているが、「地区社会福祉協議会」と正式名称を記載しておくことが必要ではないだろうか。

清 水 地区社会福祉協議会（地区社協）とした方がよいだろう。

山 本 向日市社協や地区社協は、知っている人が少ないので、この際にもっとていねいに説明をしてはもらってはどうか。

矢 野 「各」地区社協などとしなくてよいでしょうか。

木 下 フルネームで呼ばれることは少ないので、カッコ書きで「(社協)」としてもらえたらよいでしょう。

矢 野 社協がどこにあるのか、ということをよく聞かれます。所在なども示した方がよいのではないのでしょうか。

清 水 地区社協もいろいろ活動しているが、認知度の問題はあるので、15 頁あたりでこの際 PR してもらえたらよいかも。

山 本 この際なので、市役所や地域包括支援センターなど福祉資源マップのようなものも掲載してはどうか。

木 下 社協のことをドームと言っている人がいたのにびっくりした（社協が入っている福祉会館の形を見て、そう呼ばれているよう）。12 頁に市民活動団体の電話番号が掲載されているが、どのような取り組みをしているのかがわからないので、もう少し内容を充実させた方がよいのでは。

清 水 他のものについても詳細な情報がほしいものがある。そうするとページが増えすぎるので、今後の取り組みとしてそのような冊子を作ってはどうか。

木 下 私が知らない団体も掲載されています。たくさんの情報は必要ではないが、市民活動は幅が広いので、概略がわかる方がよいと思いますが。

山 本 市民活動団体の詳細は他とのバランスを崩す可能性が高いので、簡単に記載できるかどうかをご検討願いたい。

清水 13頁の上表の「相談・支援」の詳細が下表になっているので、その注記を書いておいてはどうだろうか。

山本 民生委員・児童委員、主任児童委員については、若い人はほとんど知らないと思われるので、解説してはどうだろうか。その意味でいうと自治会、町内会も説明が必要かもしれません。福祉専攻の学生でも知らないものが多いので。

木下 用語集をつける予定ですか。

事務局 用語は、まとめて後ろにつけていたが、出てきたごとに記載した方がよいのか考えています。

山本 用語集の解説内容も注意して記載する必要があるなので、チェックさせていただきます。また、後ろまでめくって見る人は少ないので、その都度、脚注にしてもらった方がよいと思いますが。

清水 「自治会・町内会等」の役割について、地域福祉の基盤となっていることをもう少し説明してもらいたい。

木下 12頁は、市民活動なので、単に「ボランティア活動」の中に市民活動を入れてしまうのではなく、「市民活動とボランティア活動」とした方がよいのでは。

山本 見出しや小見出しで括っている表題と内容とのチェックを再度実施していただきたい。

(3) 第3章について

修正箇所などについて

- ・重点施策と推進施策の2本立てとした。
- ・「福祉マインドの高揚」に修正した。今ある意識をさらに高めていこうという思いだ。庁内ワーキングでももっとよい表現がないか、と考えたが、よい案が浮かばなかったのでご検討いただきたい。

山本 「福祉マインド」の解説はどこからひっぱってきたものですか。「心意気」はこころ（ハート）の問題だが、「マインド」は頭の問題。ルールや規範を尊重するということはマインドである。むしろ人権意識だと考えています。「消費マインド」は、こころ（ハート）で消費しないのではなく、思考・計算した結果を表している言葉です。「消費マインドが冷え込む」というのは、そのように計算している、思考しているからということです。

渡辺 「マインド」を変えるのなら、どうした方がよろしいでしょうか？

山本 「福祉マインド」を変えるのではなく、解説を工夫すべきだと思います。

渡辺 「ハート」と「マインド」の違いは、あまりわかりませんが。

木下 「福祉の文化を意識して取り組んでいくこと」などに解説を置き換えてみてはどうですか？

山本 「マインド」が要求されるのは会社です。営利団体が社会貢献として実践していると「福祉マインド」があるという評価になります。ハートとは違うことを強調してはどうか。「おたがいさまの精神」はハートかマインドかということです。ご検討いただきたい。

「福祉マインドの醸成」は難しいということで、「高揚」になったそうですが、「醸成」という意味合いがもっとも馴染むと思います。次に「安心感の醸成」の表現があるので、バッティングします。「安心感の醸成」も達成するのは難しい問題です。

なお、「要支援者」は前回も議論しましたが、介護保険的な表現であり、やはり気になります。介護保険計画と誤解されなければよいと思いますが。

野 田 下の注釈で説明があり、子育て支援なども書かれているので、誤解を受けることはないのではないのでしょうか。

山 本 「自己実現」という言葉は一般化していますが、本来あるべき姿を持っていないとできないものであり、イメージはわかるが、内容や手法などを説明できない学生も多いので、少し補足説明してもらえたらありがたい。

(4) 第4章について

修正箇所などについて

- ・項目を整理した。
- ・「現状と課題」を最新事例に置き換えた。「考え方」は簡単に箇条書きとした。「取り組みの方向性／具体的な取り組み」でなすべきことを整理した。

山 本 「福祉マインド」を高揚・普及するために、この提案が有効かどうか、特に普及ということがついている意味、現状と課題などがもうらできているかなどを検討する必要があります。

28 頁の取り組みで「福祉マインド」を広めることができるのかがポイントと思います。「場づくりを働きかける」ということだけでは、福祉マインドに届かないのではないかと思います。助け合いをしようというのは無理であり、人と人が会うことで相互に認識ができるのではないのでしょうか。「ちょっと出てこいよ」というような「一万人の集い」という、集まる場・つながる場をもっと積極的に提案していくことが必要ではないのでしょうか？

木 下 市民まつりには多くの人が集まっていたし、いろんなボランティアも活躍していました。市民まつりのような取り組みを提案しようということですね。

事務局 もう一段、具体的な取り組みを記載するという案も検討しましたが、それについては担当課が実施計画として作成した方が動きやすいのではないかと考えています。

山 本 書くべきことは、きちんととらえられています。しかし、「すごいなあ」という部分が見当たりません。

地域福祉論としては、「つながる」ということをどれぐらい記載しているかということで、地域福祉に対する各自治体の認識状況がわかります。事業者が持っているネットワークを行政がどれだけ認識していて、それを広げる働きかけをしようとしているかということです。そして、行政と事業者がパートナーシップで動くということをも具体的に提示しているかということです。最後に市民の参加を求めていくことを打ち出していくかなどを打ち出していくことが必要です。

細かい計画について書くのではなく、どこまで書き込めるか、ここが勝負どころではないかと思います。

木下 ネットワークのことはそれなりに書かれていると思います。場づくりこそ必要だと感じています。

細かいところですが、30頁の「展開されています」は「しています」でよいと思います。

37頁の「要支援者のいる家庭への支援」で「支援体制づくり」は今後の重要な課題だととらえています。

38頁の「子ども・子育て家庭への支援」で「いじめは絶対に許さない」という表現はきつすぎると思います。してしまうこともあるが、お互いに気をつけようというぐらいの表現がよいのでは。虐待も同様です。

40頁の「ボランティア活動と地域との協働」の記載に違和感があります。ここでの「地域」とは何を指すのでしょうか？「協働」は、行政と市民の間のことという認識がありますし。

将来像の一つである「要支援者自身も支え手となることができる社会」の具体的な取り組みが記載されていないように思います。社協では出前教室をしています。ここでは、障がい者自身が学校で子どもたちに経験を語るような取り組みをしています。このようなことをもっと取組んでいくことができるのではないのでしょうか。

山本 「いじめ」については、加害者と被害者の問題があります。どう考えるかということがマインドの問題でしょう。「どうしましょう」と思うのがハートです。この違いをふまえて記載していく必要があります。最近はいじめがゲーム化しているところがあり、私自身は「絶対に許さない」と考えています。現在、いじめはかなり深刻な問題となっています。

事務局 不登校やいじめについては、所管の生涯学習課の方からの要請があり、このような記載をしています。

森川 私は小学校からずっといじめにあった経験があります。いつまで経ってもなくなっていないです。

木下 支援する側からみると、「絶対」という表現が必要かもしれません。

山本 「いじめは絶対に許さない」の表現については、事務局で再度検討をお願いします。

木下 40頁については、ボランティア団体が、地域や困った人から直接助けてほしいと言われても困るだろうと思います。困った人も最初にボランティア団体に頼もうとも思わないでしょう。間に入る関係機関、組織や人が重要になると思います。NPOだとできる可能性もありますが。私自身も社協として検討していきたいと思います。

「協働の取り組み」については、「助け合いの取り組み」にしてはどうかと思います。

山本 ボランティア団体の位置付けをふまえると、この書き方は再考する必要があります。また、「地域」のどこと協働するのか、ということももう少し検討する必要があります。

要支援者が受け手ではなく、主体となっていることをどこに記載するかも検討いただきたい。

事務局 要支援者の社会参加については、第5章に記載しています。

(5) 第5章について

修正箇所などについて

- ・第4章と同じように、「考え方」と「取り組みの方向性／具体的な取り組み」で整理している。

木下 45頁に先ほど紹介した障がい者の活動事例をふまえて取り組みを記載していただけるとありがたい。

43頁に関連して、向日市では「介護相談員」の制度があり、施設に行って利用者には話を聞くなどの取り組みをされているので、それらを記載してはみてはどうか？権利擁護に関してもいろいろなことをしていただいています。

(6) 第6章について

修正箇所などについて

- ・「課題と考え方」で目標や目的などを明記した。

山本 「地域福祉基金」の用語説明をお願いしたい。

事務局 「ふるさと創生事業」として国から支給された3億円を基に、「基金」として運用し、取り崩しながら福祉事業に充てています。

清水 市はいろいろな福祉をしていますが、地域福祉の大半の事業は、市社協に委託したりしている部分が多いのではないですか。

事務局 関係する所管課も多く、都市計画や生涯学習課などが関わっている部分もあります。ただ、ボランティア関連については、市社協が中心になって担っていただいています。

清水 周知やPRが全体に不足しているものが多く、市社協独自では、進んでいないものが多いと思います。市役所の方でも、この部分でもっと強力な手立てをとれないのでしょうか。各家庭でも必要なことなどが多いので、もっとみんなに知らせていくことが必要だと思います。

山本 計画の中で、行政としてできることをもっと明記するようにしていただきたい。

3. 全体を通しての感想・意見交換

渡辺 家族が高齢化して、倒れるまで高齢者福祉のことをあまり考えたことがありませんでした。その時に、緊急時にSOSするところとか、相談できる場所などがわかるものがあったら、とても助かると思いました。

計画書の表紙だけを見ると、子育て支援のことが含まれているとイメージできないので、子どもが入ったようなイラストなどがあるとよいと思います。

余田 市老連のグラウンドゴルフの秋の大会がありました。良い天気が無事に終わりましたが、その関係でなかなか読む時間が取れませんでした。前回と比較して読んでみましたが、十分に読み切れていない部分があります。今後は、一人でも二人でも声をかけて読んでもらうようにします。

矢野 向日市社協を知っている人が少ないです。民生委員についても知られていません。

どこに行ったらいいかということをよく聞かれます。細かく情報提供していますが、問題はなかなか解決できません。書いていることをどこまで実践できるのかも大きな課題だと感じています。

森 川 全部読むのが難しい、根気が続きません。丁寧に書かれていると思う程度であり、会議で話を説いていると、考え方などが理解できます。一人ではなかなか取り組みません。

「福祉マインド」は、余計な言葉をつけずにこのままをタイトルにすればと思います。「安心感の醸成」も「安心・安全」とスキッとさせればよいと思います。

野 田 なかなか読み切れません。字が小さいので読みにくいということもあります。高齢者にも読みやすいようにしていただきたい。表紙にいろいろな人の絵が掲載されれば、自分たちも関わっていると思ってもらえるのではないのでしょうか。

上 田 成果物は、色が入るとよいと思います。アンケート結果の表（グラフ）は見にくいので、数字はない方がよいのではと思いました。

清 水 いろいろな意見がでて、良いようにまとまってきたと思います。絵に描いた餅にしないためには、実践していかなければならないですが、お金も必要となるので、計画に優劣をつけることが必要ではないかと思えます。

木 下 介護保険の負担など今後どのようになるのかということが問題になっているように、制度が変わりつつあり不安があって、これだけでは先が暗いです。地域で楽しく生き生きと暮らしていくための方策をみんなで考え、実践できたらよいと思います。委員としてこの計画を活用し、PRしていきたい。

河 合 行政職員として参加していますが、市民委員のみなさん、お忙しい中、ご参加いただき、ありがとうございます。最初の時に、「自分自身がボランティアとして何ができるか」と問われ、考える機会が持てたことがよかったと思っています。

製本に関しては、左側に1頁がくるということはないのでしょうか。第1章の4頁だけが飛び出ているので、気になっています。

山 本 読むのが大変だということなので、これを重く受け止めていただいて、見開きの頁で完結させていくなどの工夫をしていただきたい。

字の大きさも改善していただきたい。カラーにする際は明るい色を使っていただきたい。メリハリ・優劣をつけていただきたい。

報告書の完成度をあげるために、忌憚のないご意見をいただいたので、今日の発言で失礼があればお許しいただきたい。

4. 今後のスケジュールなど

事務局 この後、修正をかけて、パブリックコメントさせていただきますが、その際にみなさんにもお示しします。パブリックコメントの結果をふまえて、再度修正を行い、来年2月頃に最終の委員会を開きたいと考えています。その際には、今年度の事業についての進捗状況の報告をさせていただくことを考えています。よろしくお願ひします。